

「新しい公共」における課題の整理

地域の課題

【ヒト】活動を担う人材が集まらない
新たに人が集まらないため、
中心人物が失われると活動
停止

【モノ】地域に資産はあるが、活動に提供
されない
地域にある様々な資源を有効
に投入できないため、展開・
拡大が困難

【カネ】地域の資金が現場に流れない
ビジネスモデルがないため、
資金が流入しない

【チエ】必要なノウハウが集まらない
経営に必要な情報が分散し、
個々の主体ではノウハウや
事業情報の整備が困難

【構造的課題】

地域活動に必要な要素が集まり、
自発的課題解決につながる環境が
整備されていない。(過疎集落等)
における拠点・場、地域の志ある投資
循環、リーダー人材育成など)

出典:「平成22年 集落課題検討委員会中間とりまとめ」等より構成

地域の取組からの示唆

市民の善意を活動にむすびつけ、
資金＋スキル支援をしよう

【例】出資金を、NPOやコミュニティビジネス
などの地域課題を解決する事業へ
の融資とハンズオン支援を実施

地域の資源を活動に動員しよう

【例】地域の空き家を、冬期は高齢者の集
住に、夏期は都市住民に「二地域居住
者用施設」として活用

人材活用と新しい財・サービス生産へ

【例】地震により被災した 土蔵の修復に
向け、NPOがコミュニティファンドを構築。
・出資者からの出資により、土蔵を修理・
運営する人材を育成し、地域で土蔵商
品や環境サービスを提供

金融機関の力で地域のヒト・モノ・カ
ネ・チエを結びつけよう

【例】NPO等の地域活動に対し、目利きを
行い、必要な助言を与え、つなぎ資金、
運転資金、設備資金等を融資。

1・2回WG
におけるご意見の整理

1. 担い手に対する資金・資源 の支援

→資金＋ハンズオン支援の連携
→寄付に加え、地域に投資と融資を
→資金を地域内部で回転させるしくみ
→既存金融機関と市民金融との連携
→地域通貨、バウチャーなど多様なしくみ

2. 担い手に対する経営・ノウハウ などの非資金的支援

→大学の地域づくり参加
→地域をつくる人を「創る」
→目利き人材を「創る」
→まちづくり＝地場産業復興
→ビジネスとして成功する活動へ

3. 担い手と地域、行政の協働 (非営利組織の地域内連携)

→市民セクターが強化され、地域と行政が切
磋琢磨する社会の実現
→担い手からの政策提言のしくみ
→中間支援は行政代行型から事業提案型へ
→連携による内発型地域ポテンシャル発現

4. 共通の視点

→担い手の特性に応じた対応
→地域活動が雇用と収入、生き甲斐を生む
→専門性と志を持つ市民の社会参加
→多様な意見を持つ担い手による協働
→活動プロセス・段階に応じて柔軟な支援
→コミュニティ～広域レベルの幅広い支援
→活動経験が主要キャリアパスへ